

は

じ

め

て

古

の

文


書


入門編





【練習問題2】


次のくずし字を読んでみましょう。□に文字1字を入れてみてください。


①  □ □

②  □ □ □

③  □ □ □ □

④  □ □ □ □

⑤  □ □ □ □

⑥  □ □ □ □

私たちが普段何気なく使っている「ひらがな」は、「あいうえお…」であらわされます。今ではほとんど使われなくなりましたが、わ行の「ゐ」「ゑ」というのもあります。

しかし、この「ひらがな」。今の字体になったのは、それほど古いことではありません。現在、私たちが使っている「ひらがな」の字体は、一九〇〇(明治三十三年)の「小学校令施行規則」により統一されたものです。それ以前、

とくに江戸時代には、いわゆる変体がなく呼ばれるかな文字が使われていました。

現在の五十音表では、同じ音をあらわす字体は一つしかありません。戦後になって、五十音表から削除された「ゐ」「い」、「ゑ」は「え」と同じ音をあらわしていました。

実は、このように同じ音をあらわす字体が、たくさん存在していたのです。

六〇七頁を開いてください。そこには「変体がない一覧表」があります。実にたくさんの変体がない一覧表があります。これをいきなり全部覚えなければならぬ…、となると、それだけで嫌気がさしてきます。


一覧表を丸暗記するのではなく、出会った都度、一つずつ慣れて覚えていってください。よく使われる字は、決まっています。お目にかかることがほとんどない字もたくさんあります。出てきたものを順番に学習していきましょう。

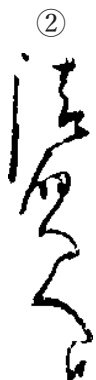
ポイント2 助詞を見分ける


文のなかに出てくる助詞の大きさと位置、そして書き表し方のルールを知り、早めに慣れましょう。


【練習問題3】


次のくずし字のなかで、助詞にあたるものを○で囲み、□に一字を入れてみましょう。

①  雇夷人共 □

②  請負人 □

③  運上家 取寄 □

④  米相與 申候 □

⑤  運上家 引取 □

「ゝへ」は、「江」であらわされます。たいていは右下に小さく書かれます。ただし、現代の「ひらがな」と同じ「へ」も使われます。横棒に近い「へ」もあれば、右下に書かれ、右斜め下に向かう棒のような「へ」もあります。

くずし字だけを見ると、①②の「人」の「へらい」の部分と似ています。これらの区別は慣れるしかありません。

「江」を現代の字体で書き表す場合は、前の字に続けて右下に小さくそのまま書き表します(そのままの大きさでも書き表します)。

古文書の世界の専門用語

古文書を勉強していると、しばしば聞き慣れない専門用語に出くわします。


翻刻(ほんこく)……くずし字を楷書体に直すことを「翻刻する」と表現します。本来の意味は、写本・刊本などの字句をそのまま活字に組むなどして、新たに刊行すること、です。

判読(はんどく)……くずし字から楷書体を推察しながら読むこと。

解説(かいどく)……古文書を(意味を含めて)読み解くこと。

【練習問題4】

次のくずし字のなかで、助詞にあたるものを○で囲み、□に一字を入れてみましょう。

①  当春

②  衣類等  相与

③  相願候義

④  いつれ


⑤  右何れ

「ゝも」は、「茂」であらわされます。たいていは右端に小さく書かれますが、前の字と同じ大きさの場合もあります。漢字のまま前の字の右下に翻刻されます。また、現代の「ひらがな」と同じ「も」も使われます。

【練習問題5】

次のくずし字のなかで、助詞にあたるものを○で囲み、□に一字を入れてみましょう。

①  平夷人共

②  女子へカ子共

③  番人共

④  又

⑤  鰥寡孤独の者  者

「ゝは」は「者」であらわされます。右端に小さく書かれる場合と、そのままの大きさの場合がありますが、翻刻するときは前の字の右下に小さく書きます(そのままの大きさでも書き表します)。また、カタカナの「ハ」も使われます。漢字の「者」(もの)の場合もありますのでご用心!

【練習問題6】

次のくずし字のなかで、助詞にあたるものを  
○で囲み、□に一字を入れてみましょう。

① 運上家うんじや

運上家

② 南部なんぶ

南部

③ 頂戴ていだい

頂戴

④ 初はつ

初

⑤ 流行はやり

都

流行病

漢文の助辞の名残と思われる「而」は「て」と読み、助詞として用いられます。助詞の「に」はカタカナで右端に小さく「ニ」と書かれる場合が多く、「くニ而」という表現は頻出します。右端に「ニ」があつて、その下に小さい文字があつたら「ニ而」を疑いましょう。

【練習問題7】

次のくずし字のなかで、助詞にあたるものを  
○で囲み、□に一字を入れてみましょう。

① ヲムシヤおむしや

ヲムシヤ

節

② 右みぎ

右

訳

③ 秋味あきあじ

秋味

通

④ 但たゞ

但し

節

⑤ 是こゝ

是

手続

「く」の「は」、「之」であらわれます。たいていは、点をうつたあと、右下あるいは真下にニヨロニヨロと流れます。この字を用いている場合は、漢字一字で翻刻します。指示代名詞の「之」(これ)の場合もありますので、読み方は文脈で判断しましょう。

【練習問題8】

次のくずし字のなかで、助詞にあたるものを  
○で囲み、□に一字を入れてみましょう。

① 手て

手

② 日ひ

同様

儀  存候

③ 篤あつ

篤

御談  上

④ 眩くら

眩

⑤ 右みぎ

右御祝儀

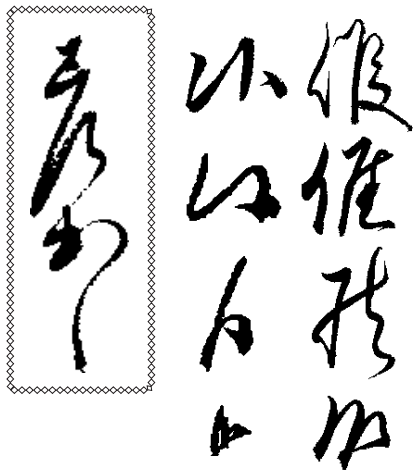
漢文の助辞の名残と思われる「与」は「と」と読み、助詞として用いられます。右端に小さく書かれるので、翻刻するときは前の字の右下に小さく書きます(そのままの大きさでも書き表します)。

## 2 候文のシャワーをあびましょう！

江戸時代の古文書の特徴の一つは、その多くが「候文」で書かれていることです。すなわち、「候」は近世古文書類出の文字です。そして、くずれ方もさまざまです。原形をとどめているものから、全くとどめないものまであり、ときに簡略化もされ、「、」のように筆をとめただけのような部分を「候」と読まなければならぬこともあります。

まずは、「候」のくずし字の形をじっくりと見てみましょう。

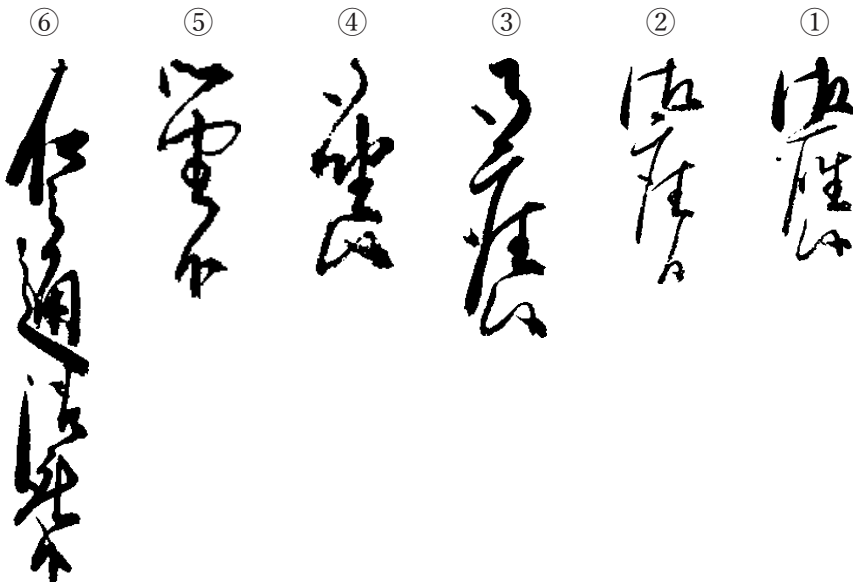
【候そうろう】 「です」「ます」



【御座候ござそうろう】 「……でございます」

【練習問題1】

「候」にあたる部分に○をつけてみましょう。



「候」「御座候」の文字の形に慣れてきたところで、次に「候文」を耳と口を使って慣れましょう。「候文」に慣れるためのポイントがいくつかあります。

**ポイント1** 「候」の下につく語を知り、言い回しに慣れる

「候」「御座候」は、いつも文末にくるわけはありません。むしろ、その下にさまざまな語がついて、次の文につながる場合の方が多いのです。

主な言い回しは、次のとおりです。何回も口ずさんで、体で身につけましょう。

【練習問題2】

次の語を声に出して読んでみましょう。

- ①【候間そうろうあいだ】「……ので」〈原因・理由〉
- ②【候二付そうろうにつき】「……ので」
- ③【候故そうろうゆえ】「……ので」
- ④【候ハ、そうらにはば】「……したら」〈仮定〉
- ⑤【候而者そうろうては】「……したら」
- ⑥【候得者そうらえは】「……したら」

【助動詞】

【被】る／らる

〈受身・尊敬〉

承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

【練習問題5】

次のくずし字を翻刻しましょう。

① 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

② 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

③ 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

④ 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

⑤ 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

⑥ 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

【可】べし

① 「しなさい」〈命令〉

② 「するのがよい」〈適当〉

③ 「するはずである」〈当然〉

④ 「するだろう」〈推量〉

⑤ 「しなければならぬ」〈義務〉

しなさい

【練習問題6】

次のくずし字を翻刻しましょう。

① しなさい

② しなさい

③ しなさい

④ しなさい

⑤ しなさい

【不】ず

〈打ち消し〉

承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

【如】ごとし

〈同一・類似〉

承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

【練習問題7】

次のくずし字を翻刻しましょう。

① 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

② 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

③ 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

④ 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

⑤ 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる

⑥ 承<sub>レ</sub>知<sub>レ</sub>らる



北海道博物館

森のちやれんが HOKKAIDO MUSEUM